

阿蘇山

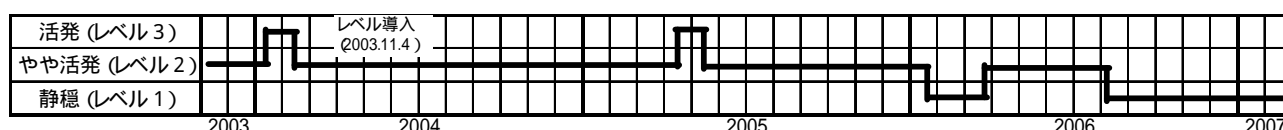
火山活動評価：静穏な状況（レベル1）

中岳第一火口の火山活動は静穏に経過しました。

火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

平成18年8月4日以降、レベル1が継続しています。

火山活動度レベルの推移



概況

・噴煙活動の状況（図2）

噴煙活動に特段の変化はなく、噴煙は白色・ごく少量で高さは概ね200m（最高高度は400m）で推移しました。

・地震、微動活動の状況（図2～4）

火山性地震の月回数は15回（1月：83回）と、少ない状態で経過しました。震源は、主に中岳第一火口付近のごく浅いところに分布しました。

孤立型微動の月回数は407回（1月：408回）と、少ない状態で経過しました。

火山性連続微動の振幅は小さな状態で経過しました。

・中岳第一火口の状況（図4～6）

中岳第一火口の湯だまり¹⁾量は10割、色は乳緑色、表面温度²⁾は48以下の低い状態が続いています。湯だまり内では噴湯現象を観測しましたが、土砂噴出はありませんでした。南側火口壁では、噴気活動がやや活発になり、16日の現地観測では温度が111（1月21日56）とやや高くなりました。熱映像観測³⁾でも高温域がやや広がる傾向が認められています。

- 1) 活動静穏期中岳第一火口には、地下水などを起源とする約50～60の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいます。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られています。
- 2) 赤外放射温度計で観測しています。赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 3) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所を測定することが出来る利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所、阿蘇火山博物館のデータを使用しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』及び『数値地図10mメッシュ(火山標高)』を使用しています(承認番号：平17総使、第503号)。

・地殻変動の状況（図 7）

GPS 連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

・全磁力の状況（図 8、図 9）

気象庁地磁気観測所による全磁力連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

・吉岡の噴気地帯の状況

15 日の現地調査では、南阿蘇村吉岡の噴気地帯の噴気には特段の変化はありませんでした。

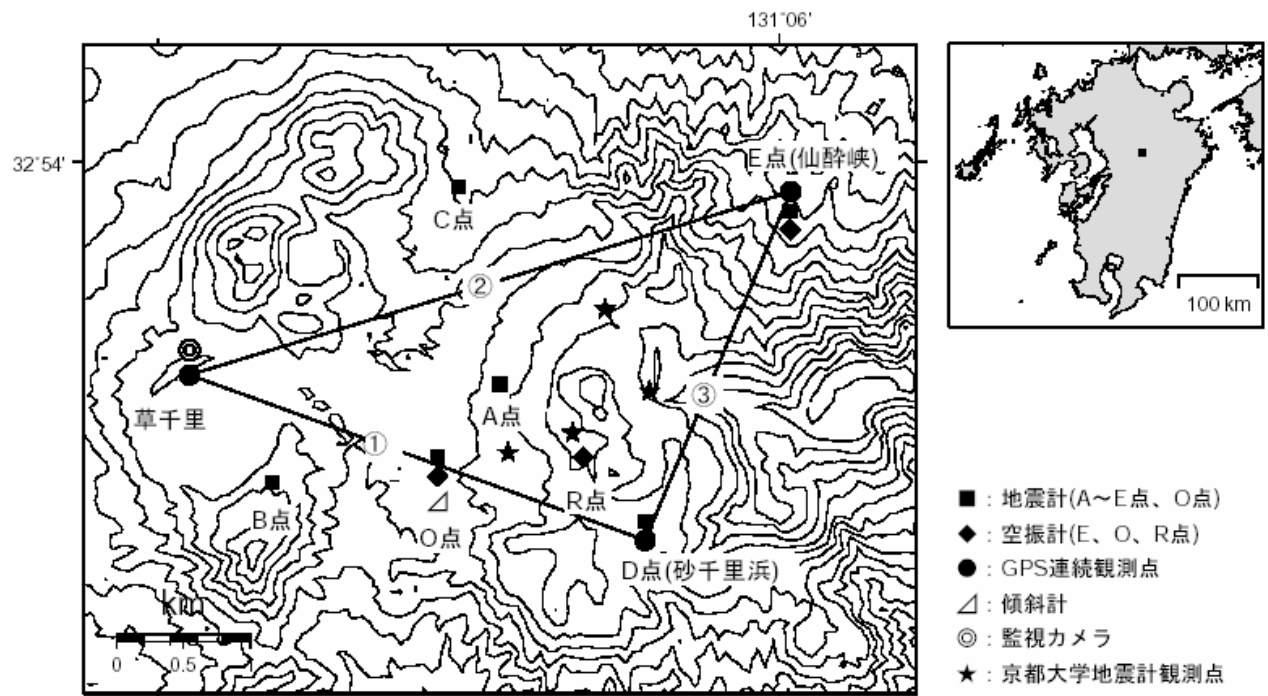


図 1 阿蘇山 観測点配置図

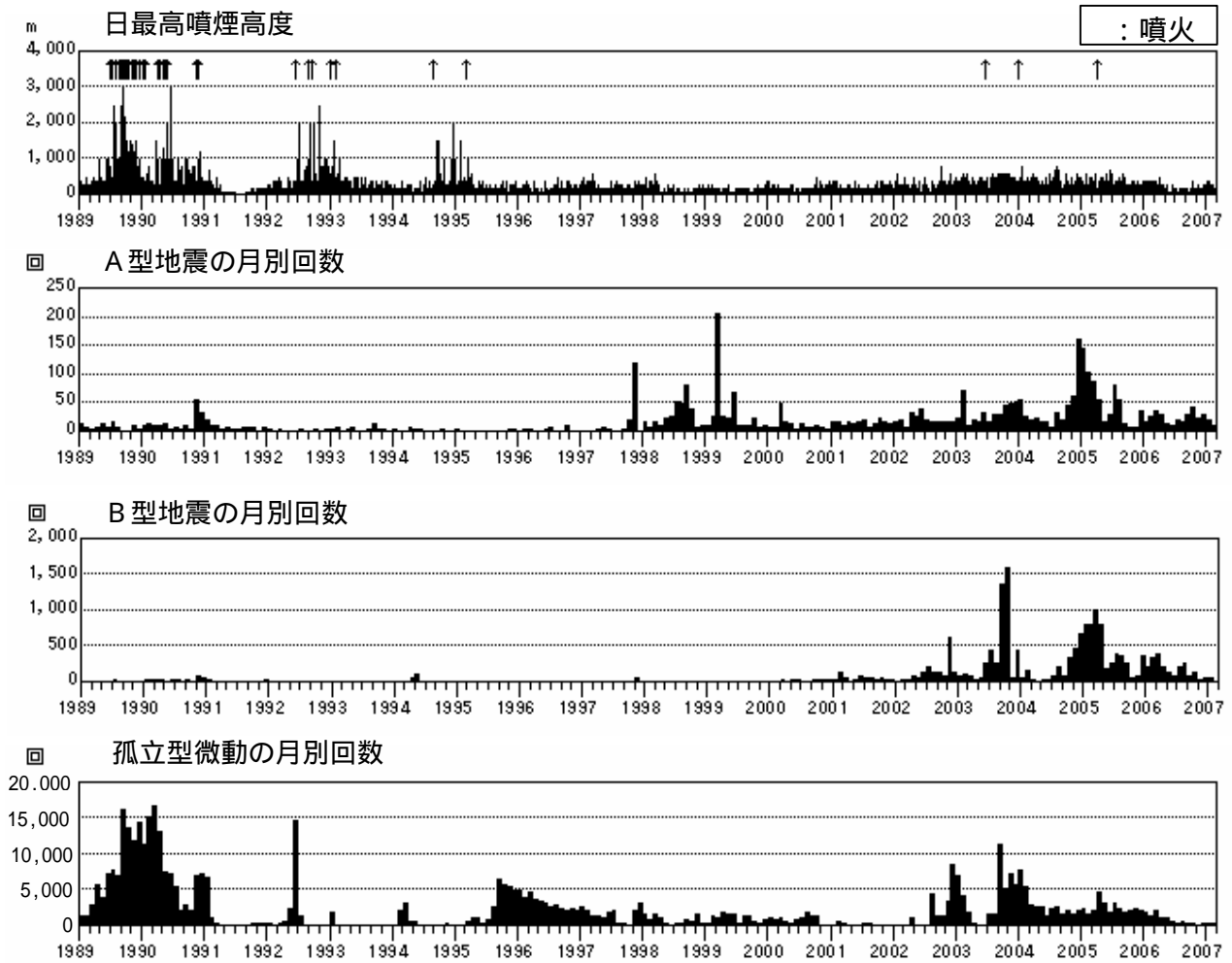


図2 阿蘇山 火山活動経過図(1989年1月1日～2007年2月28日)

- ・噴煙の状況に変化は認められず、最高高度は400mでした。
- ・火山性地震、孤立型微動の発生回数は少ない状態で経過しました。

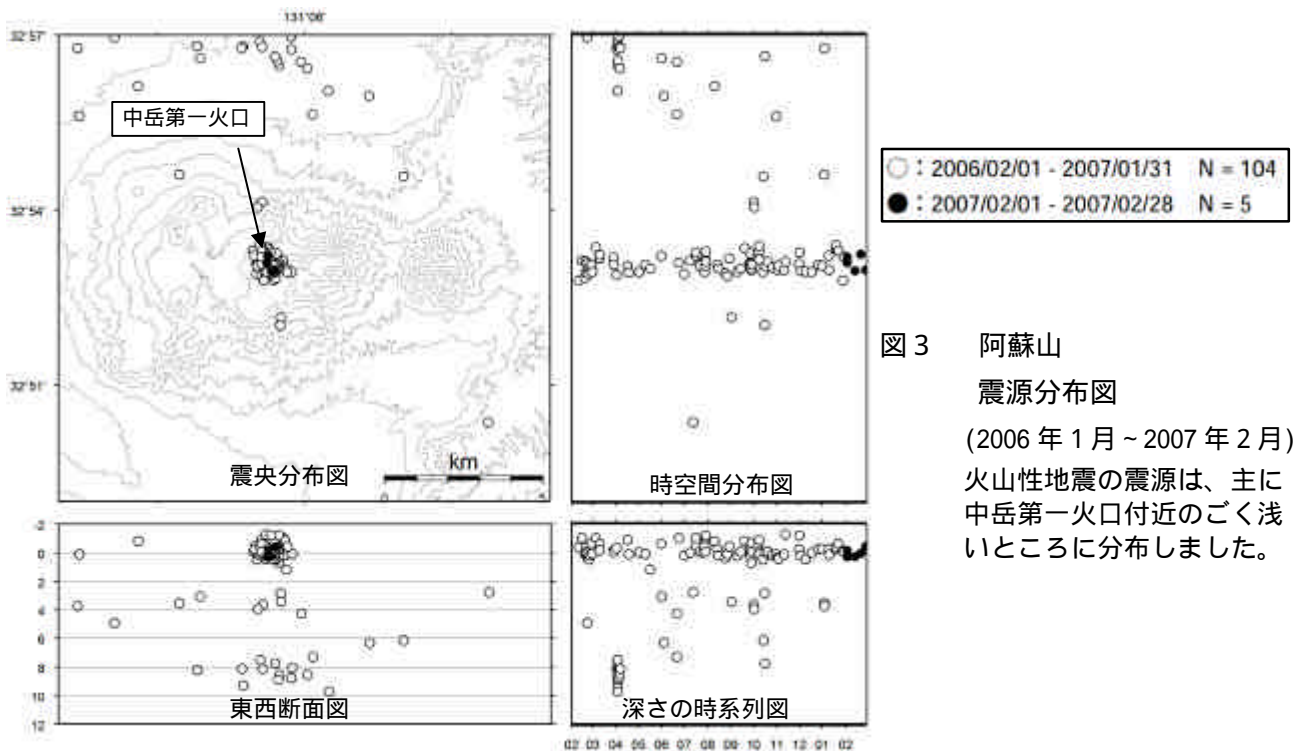


図3 阿蘇山
震源分布図
(2006年1月～2007年2月)
火山性地震の震源は、主に中岳第一火口付近のごく浅いところに分布しました。

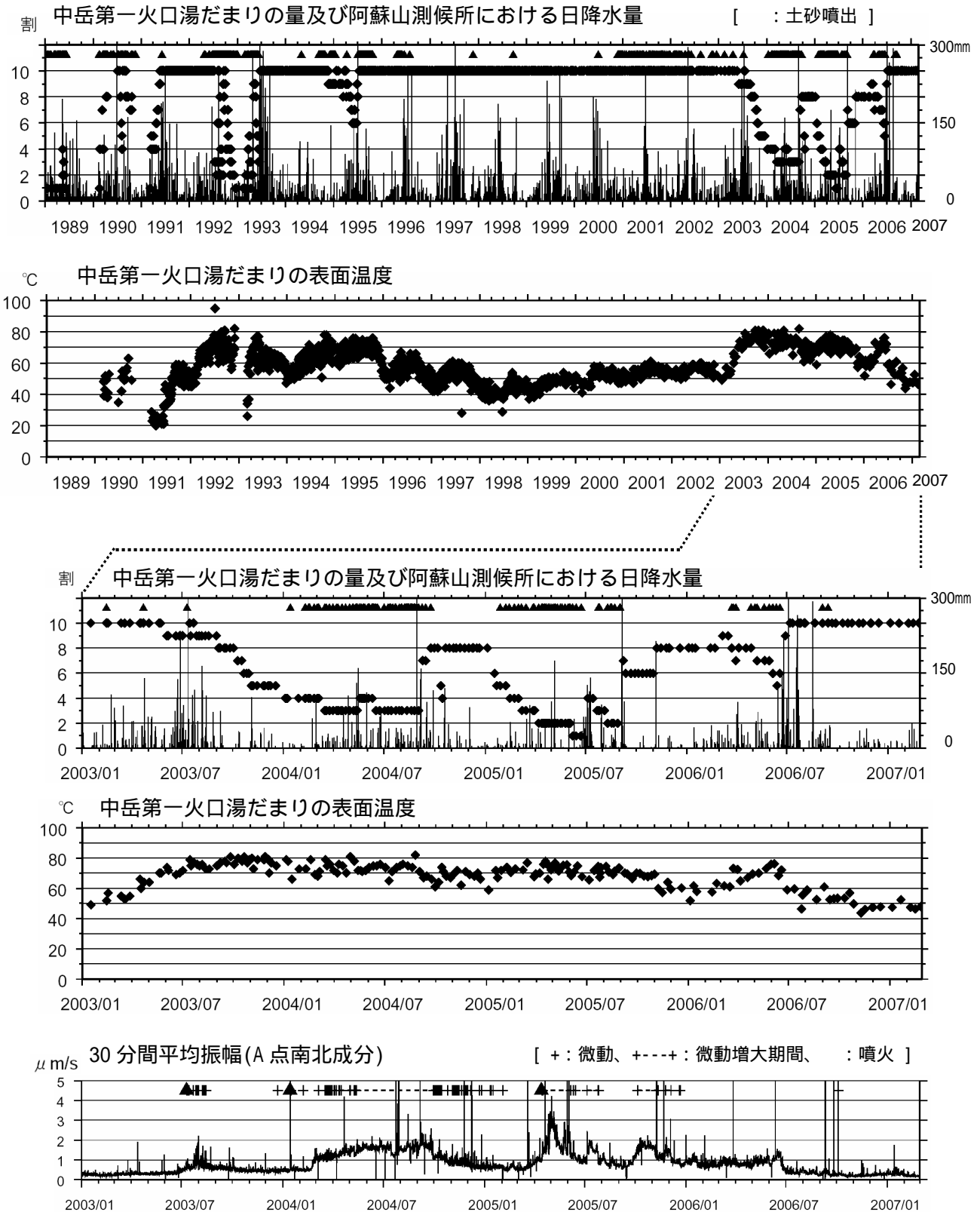


図4 阿蘇山 火山活動経過図(1989年1月1日~2007年2月28日)

- ・湯だまりの色は乳緑色で、湯だまり量は10割で経過しました。
- ・湯だまりの表面温度は48 以下の低い状態が続きました。
- ・湯だまり内で噴湯現象を観測しましたが、土砂噴出はありませんでした。
- ・火山性連続微動の振幅は小さな状態で経過しました。



図5 阿蘇山 中岳第一火口の状況(2007年2月16日、南西側より撮影)
・湯だまりの色は乳緑色で、湯だまり量は10割で経過しました。
・湯だまり内で噴湯現象を観測しましたが、土砂噴出は観測されませんでした。
・南側火口壁では噴気活動がやや活発でした。

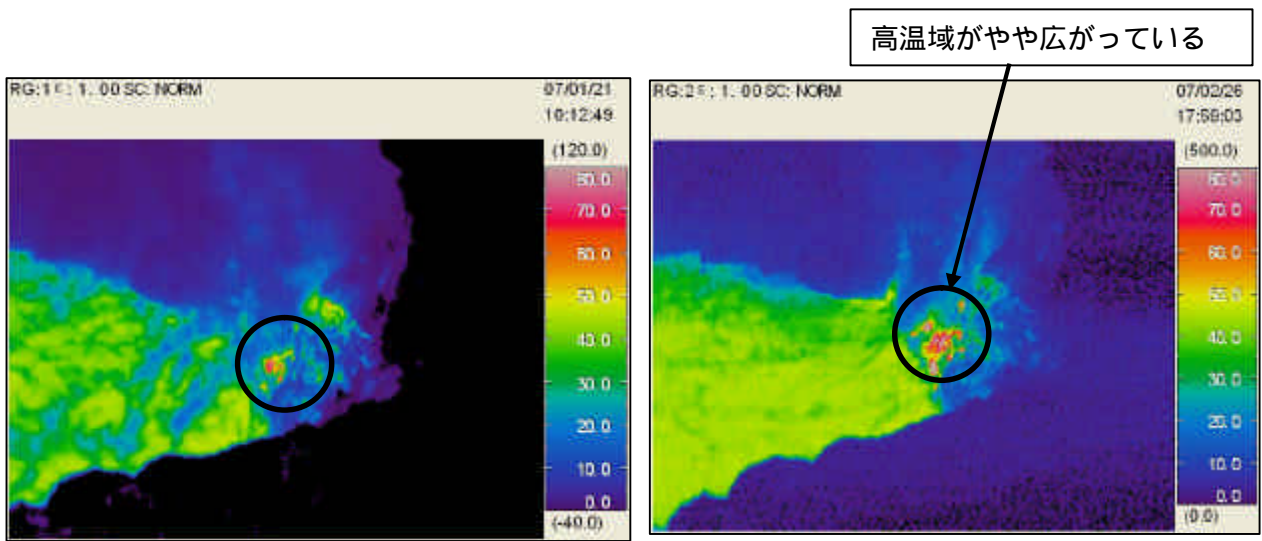


図6 阿蘇山 熱映像による中岳第一火口の状況(2007年1月21日左と2007年2月26日右、南西側より撮影)
・南側火口壁では、高温域がやや広がる傾向が認められました。

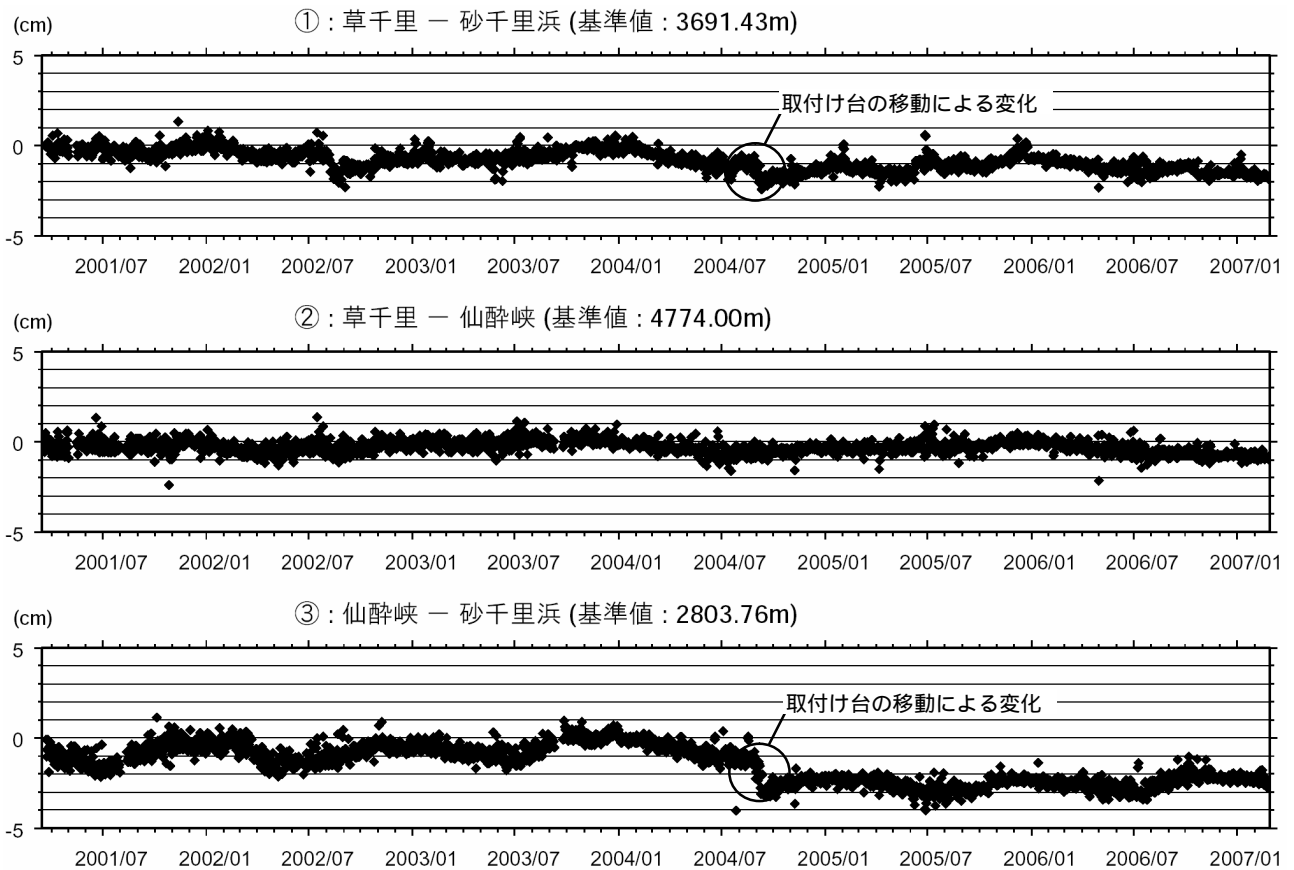


図7 阿蘇山 GPS連続観測による基線長変化(2001年3月15日~2007年2月28日)

- ・各観測点間の基線長には、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。
- ・基線の番号は図1の ~ に対応しています。

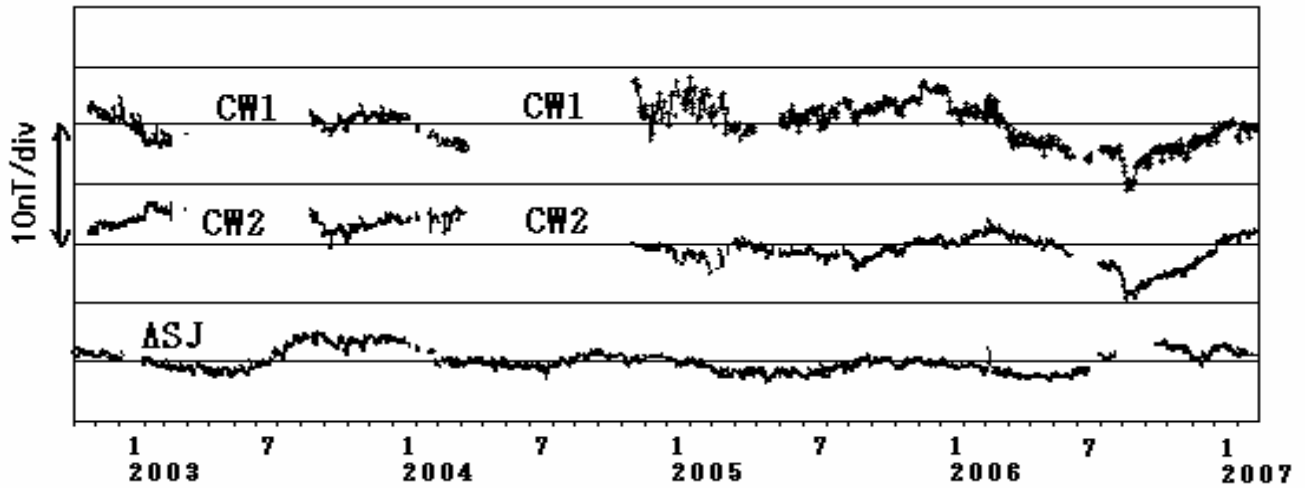


図8 阿蘇山 全磁力連続観測の結果(2002年11月~2007年2月)

・火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

<補足説明>

火口の北側で全磁力値に増加傾向(図中、上向き)、南側で減少傾向(図中、下向き)がみられた場合、火口直下での温度上昇が考えられます。

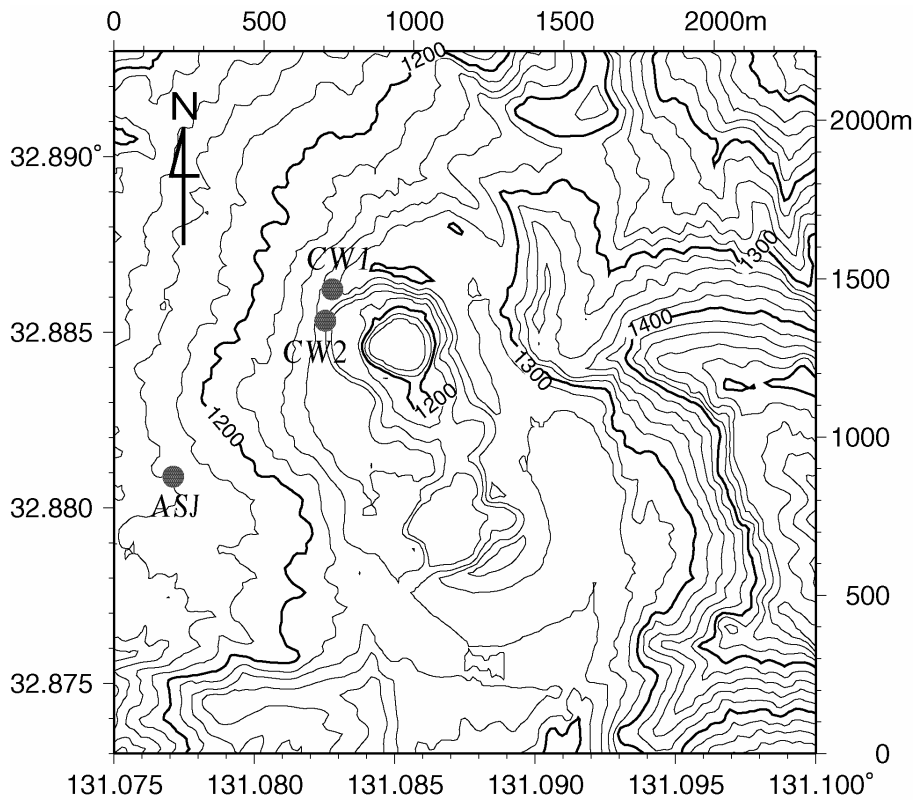


図9 阿蘇山 全磁力連続観測点